

高等学校 体育科・保健体育科における 令和4年度からの学習指導要領の年次進行実施について

保健体育課

新学習指導要領について

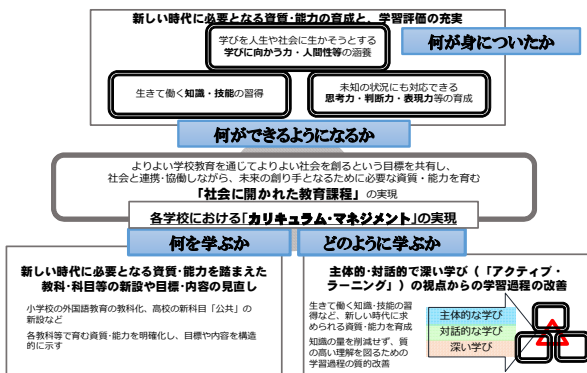
小学校では昨年度から、中学校では今年度から新しい学習指導要領が全面実施となりました。高等学校においても、移行措置期間を経ていよいよ来年度から年次進行で実施されます。

【高等学校】

	令和4年度 入学生	令和5年度 入学生	令和6年度 入学生
令和4年度	新課程	旧課程	旧課程
令和5年度	新課程	新課程	旧課程
令和6年度	新課程	新課程	新課程

今回の改訂においては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、目標や内容の見直しが行われました。体育科、保健体育科の指導内容も、児童生徒の発達の段階のまとまりや小・中・高等学校を通じた系統性を踏まえたものとなっており、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を育成することができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することが示されています。

新学習指導要領の全体構造



育成を目指す資質・能力の明確化

今回の改訂では、「何ができるようになるか」を明確化し、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等が

- (1) 知識及び技能
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

の三つの柱で再整理されました。

指導事項の共通理解を図る

○知識の指導事項

1	技の名称や行い方
2	伝統的な考え方
3	体力の高め方
4	課題解決の方法
5	発表（競技会、試合）の仕方

○思考力、判断力、表現力等の指導事項

1	良い点や修正点を指摘する
2	自己や仲間の新たな課題を発見する
3	課題解決のための計画を立てる
4	危険を回避するための活動の仕方を提案する
5	役割を提案する
6	活動を振り返り、よりよいルールやマナー（所作）を提案する
7	合意を形成するための調整の仕方を見付ける
8	楽しむための調整の仕方を見付ける
9	生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける

○学びに向かう力、人間性等の指導事項

1	主体的に取り組もうとする
2	ルールやマナーなどを大切にしようとする
3	伝統的な行動の仕方を大切にしようとする
4	良い演技を讃えようとする
5	互いに助け合い高め合おうとする
6	自己の責任を果たそうとする
7	合意形成に貢献しようとする
8	一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとする
9	健康・安全を確保する

高等学校においては、領域を生徒自身が選択できるようにすることが原則であることから、選択した領域や領域の内容によって評価の格差が生じないように、指導事項や評価方法等について、教師間で事前に検討し、共通理解を図ることが大切です。内容のまとまりにおいて、上記に示した指導事項を、バランスよく配置します。

高等学校学習指導要領解説には、入学年次とその次の年次以降の学習のねらいや具体的な指導事項が示されています。それらを手がかりに、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の全ての「単元の評価規準」の一覧を作成する必要があります。

おわりに

豊かなスポーツライフを継続するためには、教師が、体育・保健体育の授業を魅力的なものにし、運動の楽しさや喜びを味わわせ、自信と意欲をもたせることが重要です。魅力ある授業を重ねていくことで、運動やスポーツを好きになることにつながり、生涯にわたって運動やスポーツを日常生活の中に取り入れ、楽しむことができると期待しています。